

学生NPO団体SPAC

運営部御中

2025年10月19日  
オンライン開催

# みんなが主役の社会実現へ イベント報告書

2025.11.07

## 〈目次〉

1. イベント開催の経緯
2. イベント開催前
3. イベント当日 / これからに向けて

### 1. イベント開催の経緯

誰一人取り残さない、皆が幸せな社会を創るためには、皆が声を挙げなければならない。そして互いを知る必要がある。そこで今回は、いじめ・不登校の当事者の方の貴重な声を人々に共有する場を設け、それを通して、多くの人に事実を知ってもらうとともに、社会に触れ、改めて考えるきっかけを提供するために企画をした。

(運営者：三宅 航平)

不登校は病気でもないし、悪いことでもない。いじめは絶対してはいけない。いじめをすることがいいというわけでもない。しかし、全部が全部悪いというわけでもない。そんな想いを、たくさんの人に届けたく、この企画を立ち上げた。この国に限らず、この社会に生きる人々が生きることの楽しさや価値を感じて自分らしく生きられるようにみんなで考える機会になるとも考える。

(企画者：佐々木杏奈)

## 2. イベント開催前

私、三宅は8月中旬にSPACに所属し、本イベントの運営の委託を受ける。(SPACでの初のイベント)当初からイベントの構成はある程度できており、運営部の佐々木氏と共にそれに沿って運営をした。

様々なイベントについて議論をし、運営を進めていく中で、佐々木氏が考えていたイベントと私が考えたイベントで認識や構成に不一致が生じていることが発覚。



- **ゲストを呼ぶかどうかについて**

佐々木氏：ゲストは呼びたい

三宅：「ゲスト」として特別な扱いでは呼ばず、一参加者として皆さんに来てほしい。(皆がゲストみたいな感覚)

- **イベント内容**

佐々木氏：トークテーマを設けてそれについて話し合うのがよい

三宅：トークテーマは設けない。参加者それぞれの自己紹介の時間を多くとれば、そこから自然と会話が生まれると思う。

また、上記に加え、当初は他団体や企業に共催やご支援等をいただき、このイベントを主催するとしていたが、**広報等イベントの拡散の協力をお願いすることとした。**

このように、特に上の2点の解釈が一致していなかったことが運営を苦戦させ、かつそこから連携不足も多々生じた。(報告/連絡/相談等ができていない状態)

## 2. イベント開催前

### 1つ目：ゲストとのミーティングが共有されていない事態

佐々木氏はゲストをお呼びする想定で実際にゲストとして来てもらいたいリストの奥村春香さん（以下 奥村さん）に連絡をし、ミーティングの予定を立てていた。三宅はそれを知らず、前日の夜に受験で活動休止中の森下氏からその情報提供を受ける。資料といってもミーティング用の物はできておらず、事前に作成しておいたインスタグラム等で個人単位で共有する用の企画書のみを使わざるを得なかった。ミーティングが近いにもかかわらず、佐々木氏と三宅の解釈の不一致は解決できそうになかったため、団体メンバーと緊急会議をし、ゲストを奥村氏のみお呼びすることに。ゲストとしてお呼びするが、当日はゲスト紹介等以外、一参加者として参加をしてもらうという方針を固めた。ミーティング当日（1時間前）、どうにかしてゲストとして来ていただけるようにSPAC内で最後の打ち合わせをした。

イベント企画者である佐々木氏が奥村さんにこの企画をしっかりと説明できるように、受験メンバーにも協力いただき練習をしていたのだが、佐々木氏が家庭内事情により急遽参加が厳しくなり、我々はその連絡を開始30分前くらいに受ける。佐々木氏からミーティングのリンクを預かり、緊急で代表代行の砂田氏と運営の三宅の2人でミーティングに参加をすることになった。ミーティングの様子は三宅がディスコードの会議通話で画面を共有し、その他のSPACメンバーに生配信という形で共有をした。かなりドタバタではあったが、奥村さんにゲスト参加の承諾をしていただき、無事にミーティングを終えた。

### 2つ目：DMコピペ送信問題

次ページ

## 2. イベント開催前

ページ目青文字の通り、他団体に広報拡散の協力をお願いしたり、個人あてにイベントの情報を発信する際に、インスタのDMを用いた。担当を決めてその人をお願いをしたが、その際、送信した文章に文法等の誤りがあったり、相手関係なく全員に同じメッセージを送ってしまっていた。SPACが以前にお世話になった方や団体に対しても「はじめまして」からの文章であった。SPACメンバーも確認をすることができておらず、送信後メッセージを見て違和感に気付いた。同時に森下氏からも忠告をしていただき、反省をした。今後はそういったことがないように、DMをする際は広報と同じように文章の添削をすることとし、そのスペースをディスコードに設けた。そして必ず事前に連絡をすることを再確認した。

その他、イベント前に行った「インスタライブ」では講評を多数いただいた。イベント前1週間の期間、三宅は学校で絶賛テスト中であったが毎日ライブを続けた。(木曜日のみ休みをいただきました) ※成績に特に影響はありませんでしたが、寝不足によるケアレスミスや思考力の低下はみられました。機材トラブル等あった日もあったが、それでも続けることができてよかったと思う。(イベント人数の確認等もSPACメンバーに協力してもらいながら進めることができた)

### 《イベント2日前、前日》

三宅がテストを終え、イベントに集中できる時間のある程度確保できるようになったので会議を開き、会議で使用するアプリや動作の確認、イベント人数(8名)に対するグループの振り分けや役割分担の確認等を行った。その際にイベントを行うリンクを準備し、参加者に一斉送信をした。(当日11:00にももう一度送られるように予約送信もした)

次ページ

## 2. イベント開催前

### 《広報面》

広報は佐々木氏、そして森下氏にもお力を貸していただき、うまく回すことができた。イベントを行う日にちを決めながらも、イベントの発表、日にち公開、インスタライブ日程発表、ゲスト発表等の投稿を三宅が作成し佐々木氏を中心に随時投稿をしてもらった。森下氏には広報日程を調整していただいたほか、ストーリーズの常時更新や三宅のライブ配信のサムネ制作などたくさんお力を貸していただきました。アドバイスもいただき、本イベントの当事者でもある佐々木氏が経験したことに基づくストーリーズ投稿なども佐々木氏、森下氏を中心にさせていただきました。また、参加申し込みフォームは森下氏が作成してくださいました。広報面に携わってくださった全ての方へ、たくさんのご協力をいただきましたこと、大変感謝しております。ありがとうございます。

### 《連絡面》

奥村さんやその他連絡をくださった方への連絡/返信等が遅くなってしまうていた。今後は気を付けて対応しなければならない。

次ページ

### 3. イベント当日

当日、三宅は日中買い物の予定が入っており名古屋市にいた。担当であるイベントで使用するスライドや当日日程の詳細（参加者に送る用とゲスト/運営者用）の作成ができていなかったため、移動時間を駆使して車の中で全力で作成をした。当日の日程については午前中の移動時間で作り終えることができ、午前中に参加者や奥村さんに送る用意ができた。スライドも本番が始まるまでに用意を済ませることができた。

もう少し時間が欲しいのが正直なところではあった。

また、当日のイベントのリンクを奥村さんに送信できていなかったのが最大の問題であった。イベント開始3分後に奥村さんからご連絡をいただき、送信ができていなかったことに気付いた。その後すぐに送信をしてイベントを開始した。

イベントのトークタイムは、三宅チームと佐々木チームの2つに分かれて、奥村さんには20分ずつ交代しながら両チームの会話に参加していただいた。

三宅チームのほうは参加者の方が1時間と少し参加をされて退出されたので残りはSPACメンバーで互いを知るためにも自身の経験談等会話をした。

佐々木チームは話題がなかったために話を切り出すのが難しく話し始めるのが困難だったとのこと。



- ・トーク系の企画をやる際にはお題をいくつか用意しておいてもよいかもしれない（必ずしもそれについて話し合う必要はない）

イベント自体は大変好評で参加者皆さんとても楽しんでくださった。奥村さんも楽しんで下さり、我々もとても楽しかった。

次ページ

### 3. イベント当日

以下、司会進行者として私が書いたコメントです。

イベントのご参加、インスタライブのご視聴ありがとうございました。このイベントは、SPACで初めて私がメインで運営を務めたイベントでした。私自身この間非常に多忙ではありましたが、多くの方々にご支援やご協力をいただき、無事に成功に導くことができました！関わってくださった全ての皆さまに感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

インスタグラムの投稿にもありますが、みんなが幸せで、みんなが生きていて楽しいと思える社会。つまりは誰一人取り残さない社会を実現するためには、一人一人が自分の理想の社会はこれだ！と声をあげなきゃはじまらないと思うんです。十人十色、相手のことを100%理解できないから。(私は自分のことでさえ100%わかっていないような気がします笑)しかし、まず声をあげるといっても、それは知っていなければできないことです。自分の身の回りに限らず、幅広い物事の実態とか状況を。

今回のイベントでは、政治っていうざっくりした複雑な集合体を切り崩して、福祉の分野で、しかも不登校やいじめといったある程度特定の問題について話し合いをする機会をつくりました。政治って幅広すぎるから、切り崩して、考えれることから考えるのがいいと思っています！そうやって探究していくと、意外と他の問題と繋がりが現れるものです。れんこんみたいに、地下(水面下)で繋がりがああるんです。私は切り口って呼んでますが、切り口はどこでもいいので、まずはそのことに気づくことが大切だと思います！

このイベントも、知ってくださった方の「切り口」として政治に触れてみる一寸になれると嬉しいです！

これからもよろしくお願ひします！！ 三宅 航平

次ページ

## これからに向けて

私が担当したイベントが一区切りつきましたので、少々これからに向けて私から書かさせていただきます。

本イベントは、繰り返し開催をして、だんだん大きくなっていった声を国に届ける（意見書を提出する）というものを想定しております。前のページでも述べているように、今回のこのテーマは「政治」というざっくりとした複雑な集合体の一部のすぎず、一つの切り口であります。次に行われるイベントが、新たな切り口となり、皆さんでまた知って考え、探究することができる一助となることを願い、期待しております。

たくさんのごことを学ばさせていただいたイベントでした。至らなかった点を改善し、更なる躍進に努めます。改めてですが、皆さんのお力もお借りして無事に成功に導くことができました。ご理解、ご協力本当にありがとうございました。

以上 理事/広報部長 三宅 航平